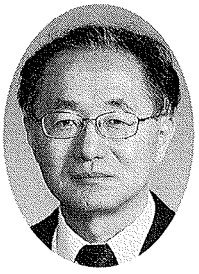
茨城県教頭会会報

発行者
茨城県小中学校教頭会
会長　薗部正巳

事務局
水戸市大場町933－1
教育プラザいばらき
電話　029－269－2711

郷土料理「赤もち」づくり体験
～伝統文化の継承～
（坂東市立長須小学校）



「信頼される学校づくりとは」

茨城県小中学校教頭会
副会長　鯉渕和彦

近年、保護者や地域住民の方々から学校に寄せられる要望や苦情が多様化してきている。子供のけが、けんか、いたずら、遊び、学習、家庭での躾など様々なトラブルが発生し、学校だけでは解決することができない困難な問題へと発展してしまう場合もある。上手く処理できないと、「学校は何をやってるのだ」「何もやってくれない」などと批判される。そういった問題を解決していく上で大切なことは何であろうか。私は、解決できるかできないかは、誠意ある態度が示せたか否か、すぐ動くことができたかどうかで決まるのではないかと考える。

問題を深刻化、複雑化させないために、まずは当事者の立場に立ち、丁寧に話を聞くこと。その場合一人で対応するのではなく、複数で対応することで事実を正確に把握し、確認する。その記録をしっかりとることも大切である。苦情ととらえず、当事者が何に困っているのか、しっかり受け止め、誠実に対応することが解決の糸口になる。

信頼される教育の場をつくるために、誰が学校を仕切っていくのかと考えると、校長自らがリーダーシップを発揮するのは勿論だが、副校長・教頭の役割も重要である。

副校長・教頭は、校長と教職員のコミュニケーションのパイプ役として、柔軟に動けることが期待される。常にどうすれば学校という組織がうまく機能するかをよく考え、工夫して実践すること。必要があれば、外部機関とも連携を図るなど、教職員がよく働ける環境づくりが、よい教育の場づくりに繋がっていくと思う。

教育の場で預かる子供たちは、一人一人が大切な存在だ。その現場で様々な意見や困難な問題が出てくるのは当たり前のこと。それらに「丁寧に、誠実に、迅速に対応する」ことができる組織づくりを心がけ、信頼される学校づくりに邁進していきましょう。

論説

教育目標の具現化を図るための教頭の役割

教育活動の活性化を図るための取組を通して

常総市立飯沼小学校
廣瀬和男

はじめに

本校では、「社会で必要とされる人になろう」という教育目標を掲げている。その実現に向けて、全職員が一丸となって地域や保護者との連携を図りながら、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成に取り組んでいる。

校長の指導の下、職員の勤務意欲を高め、地域や保護者と連携しながら、教頭として取り組んできたことについて述べる。

一　確かな学力をつけるために

児童に確かな学力をつけるために、学校として達成すべき数値目標を示したグランドデザインをリーフレットにして全ての保護者に配付した。また、グランドデザインを学校のホームページにアップし、保護者に働きかけて家庭学習の習慣化を図るようにした。

職員に対しては、グランデザインに示されている学力面の数値目標を達成できるように働きかけた。具体的には教員評価で自己目標を設定する際に、確実に教育目標及び組織目標との連鎖を図るように助言した。また、数値目標の達成をめざして、学習指導に取り組むように継続して指導・助言に努めた。

その結果、学力向上に向けてより意欲的に学習指導に取り組む職員の姿が見られ、学力面の数値目標を達成することができた学級が多かった。

また、全ての学級で、「一授業一手間　一工夫（ひとじゅぎょう　ひとてま　ひとくふう）」を意識して授業を展開し、児童に主体的に学ぼうとする態度を育てることができた。意欲的に授業改善に取り組み、授業力が向上した職員も多く見られた。

二　体力・運動能力の向上のために

昨年度の学校評価の結果から、本校の児童は全体として運動の日常化が十分に図られていないという課題が明らかになった。

そこで、体力テストの結果で、学校全体としてＡ＋Ｂの割合を五十八％以上にするという数値目標を設定した。全職員が、数値目標の達成に向けて体育の指導に熱心に取り組んだ。

その結果、学校全体でＡ＋Ｂの割合が六十％以上になり、確実に体力が向上したことが明らかになった。また、運動が好きな児童が増え運動の日常化も図られてきている。

三　豊かな心の育成のために

「本は心の栄養」と言われるように、読書活動を通して豊かな心の育成に取り組んだ。みんなにすすめたい一冊の本推進事業において、学校全体で五十冊以上を読破した児童の割合を九十％以上にするという数値目標を設定した。この数値目標の達成に向けて、全校で読書活動の推進に取り組んだ。この取組は、全員が五十冊を読破した学級も見られるなど、確実に読書好きな児童を育てることにつながった。

その他、外部講師を招いた体験活動を多く取り入れた。外部講師との交流や体験活動などを通して、児童に豊かな心を育てるために、教頭として積極的にコーディネーター役を務めた。

例えば、五年生の理科の学習では、地域でメダカを飼育している方を外部講師として招き、「メダカ教室」を実施した。顕微鏡に接続した大型テレビに孵化寸前のメダカが卵の中で動く様子が映し出されると児童から驚きの声が上がった。

また、運動会の「よさこいソーラン」では、歌詞を石下民謡会の会員の方に歌っていただき、その歌に合わせて踊った。その結果、児童は石下民謡会の会員の方との交流を深めたり、達成感を味わったりすることができた。

さらに、校舎内に「飯沼小ギャラリー」を開設し、地域の方が描いた絵画を展示した。このギャラリーは、地域の方との交流の場となった。また、展示作品を定期的に交換したことにより、児童にとって鑑賞の能力を高める場となった。

実践の成果

次のような成果が見られた。

○職員の勤務意欲の向上
○児童の学力・体力の向上
○読書活動の推進
○地域や保護者との連携の推進
○開かれた学校づくりの推進

おわりに

学校教育目標の具現化に向けて、地域や保護者との連携を図りながら、職員が一丸となって取り組むことができたことは大きな成果である。

これからも、校長の意を汲みながら、教頭として学校の教育活動の活性化に向けて全力で取り組んでいきたい。

専門部だより

研究部

第五十四回茨城県小中学校教頭会研究大会土浦大会は、十一月二十七日(水)土浦市民会館をメイン会場に、九分科会で開催されました。

大会成功に向けて五回の実行委員会を開き、準備しました。

分科会会場が三会場に分かれて実施するため、全体会場への移動方法や駐車場には苦慮しました。二回の提言者研修を開きました。特に七月の研修会では活発な意見交換により、より優れた提言内容となりました。

土浦大会の開催にあたりご尽力をいただいた茨城県小中学校教頭会役員、県南地区教頭会役員、編集を担当した県西地区教頭会、参加いただきました各郡市の教頭会の皆様に感謝申し上げます。

○主な事業

六月　第一回提言者研修会
　　郡市研究部長会
　　第一回実行委員会
七月　第二回提言者研修会
　　第二回実行委員会
八月　第三、四回実行委員会
十月　第五回実行委員会
十一月二十七日　土浦大会

調査部

調査部は、「学校管理運営についての諸調査、副校長・教頭職のあり方と福利厚生等についての調査を実施し、その問題点を解明するとともに学校運営の充実と活性化を目指す要請活動のための資料を作る。」ことをねらいとして活動しています。

調査内容や項目について、より実態に即した内容になるよう検討し、見直しました。現在、副校長・教頭の置かれている立場を的確に把握するように努めるとともに、激務といわれる副校長・教頭の処遇改善に役立つ調査を実施しました。

調査結果については、各項目ごとに集計し、分析・考察の後、全体的な傾向を資料にまとめて配布しました。

○主な実施事業

五月　郡市部長会議
六月　ブロック長会議
七月　調査用紙等の配布
八月　市町村単位での集計
九月　各ブロックでの集計
十月　郡市部長会議
十一月　分析・考察
十二月　調査資料の配付

ご協力ありがとうございました。

広報部

平成二十五年度の会報を、次のとおり年四回発行することを計画しました。

特集　一六二号　水戸
九月　一六三号　県西
十二月　一六四号　県北
三月　一六五号　県南

事業のねらい「会報発行を計画的に進め、情報交換や研究成果・勤務実態の状況把握、各部の活動等の理解に役立てるとともに広報活動の充実を図る。」をふまえ、それぞれ各担当ブロックで分担し、取り組みました。

巻頭言、論説、新会員の紹介、先輩教頭からの提言、郡市たより、学校紹介、随想等の記事を掲載し、参考となる情報の提供を心がけて編集しました。

特集・十二月・三月に関しましては、計画通り会員の皆様にお届けすることができました。ただ、九月（本号）につきましては、発行が大幅に遅れてしまい、ご迷惑とご心配をおかけしました。深く反省し、お詫び申し上げます。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿を快くお引き受けいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

法制部

法制部は、学校管理や学校運営上の諸問題について、法的根拠・解釈等の研修を行い、その結果を会員全員に配付し、学校運営に生かすことをねらいとしています。

五月二十八日の郡市部長会を皮切りに、六月から八月にかけて、各郡市、各ブロックで研修会を開催し、学校運営上の諸問題を持ち寄り、検討しました。

その研修内容をもとに、本年度も、県校長会法制委員会と連携し、十月三十一日に、合同で研修会を開催することができました。研修会では、県教育庁義務教育課管理主事安原優先生を講師にお招きして、現場で直面した事例をもとに、適切な対応の仕方等についてご指導をいただきました。最終的には、「学校運営のための法制問答集」、「法制研修会記録」として、校長会・教頭会の全会員に配付します。

○主な事業計画

六月～八月　各郡市研修会
九月　法制小委員会
十月　県校長会との合同の法制研修会
十二月　法制小委員会
二月　「学校運営のための法制問答集」配付

要請部

要請部は、「学校運営の充実と活性化を図るため、副校長・教頭が管理職に誇りと希望をもち、自らの資質の向上に努め、学校における教育条件の充実と促進を図りつつ、副校長・教頭としての十分な職務遂行を図るための処遇改善を求める要請活動をする。」ことをねらいとして一年間活動して参りました。

○主な活動

五月　・郡市要請部長会議
六月　・ブロック長会議
七月　・全国要請推進部長会
　　・国会議員への要請書提出
　　・学校長会との要請書作成
十月　・ブロック長会議

皆様から集約した要請書は、七月に地元選出国会議員へ、八月には、学校長会と共に茨城県義務教育課へそれぞれ提出することができました。

次年度の要請事項については調査部と連携し、各地区の意見を集約し、学校長会と合わせて要望書（案）を作成しました。

今後も会員皆様からの具体的な要望を基に、要請内容の実現に向けて努力して参ります。ご協力ありがとうございました。

郡市だより

ひたちなか市

ひたちなか市教頭会は小学校二十校、中学校九校の会員二十六名で構成されている。

本年度は五名の新会員を迎え、会長を中心に会員相互の連携と親睦を図りながら、副校長・教頭としての資質向上と課題の克服に努めている。

定例の研修会では、市教育委員会の指導・助言を頂きながら、校務運営上の課題解決に向けた研修や情報交換を行っている。

八月の学校管理運営研究協議会では、水戸教育事務所の先生方を講師にお迎えして研究発表会を行い、学校運営上の諸問題を協議し研修に努めた。

また、十一月には、本年度の県教頭会研究大会土浦大会において研究の成果を発表した。

本年度の主な活動

四月　市教頭会総会・研修会
五月～二月　市教頭会研修会
八月　学校管理運営研究協議会
十二月　県教頭会研究大会
　県中央ブロック小中学校教頭会研修会
三月　市教頭会研修会・役員会

那珂市

那珂市教頭会は、小学校十一校、中学校五校（副校長配置校一校）の計十六校、会員十七名で構成されている。

本年度は、新会員七名を迎えた。定例の研修会では市教育委員会指導室の指導をいただき、会員相互の連携を図りながら研鑽・親睦を深め、教頭としての資質の向上に努めている。

八月の市学校管理運営研修会では、各校の校長、教頭、教務主任等の参加のもと、教頭一名、教務主任二名が研究テーマを受けて提案発表を行った。本年度は、小グループでの発表、協議で行ったため、活発な意見交換ができ、学校運営上の諸問題に関する研修を深めることができた。

本年度の主な活動

四月　市教頭会総会・研修会
四月～二月　市定例教頭会研修会
　・教育長、指導室長講話
　・協議、各種情報交換
八月　市学校管理運営研修会
　市教頭会夏季研修会
　・前市校長会長講話
十一月　市校長会学校経営研修会
　県教頭会研究大会
　中央ブロック教頭研修会

小美玉市

小美玉市教頭会は、小学校十二校、中学校四校の会員十七名で構成されている。

本年度は、七名の新会員を迎え、会員相互の緊密な連絡により、職能の向上を図り、職責遂行と市教育の振興に寄与することを目的として、活動を展開している。

定例の研修会では、市教育委員会の指導をいただきながら、学校運営上の諸問題について、意見交換や情報交換を中心に研修を行っている。

本年度の主な活動

四月　定例総会・定期研修会
五月　定例研修会
六月　定例研修会
七月　定例研修会
八月　夏季研修会
　定例研修会
九月　定例研修会
十月　定例研修会
十一月　定例研修会
　関ブロ教頭会研究大会
　県教頭会研究大会
十二月　定例研修会
一月　定例研修会
　教育講演会（講話）
二月　定例研修会
三月　定例研修会

日立市

日立市教頭会は、小学校二十五校、中学校十五校、特別支援学校一校の四十一校、四十七名で構成されている。

本年度は、十一名の新会員を迎え、会長を中心に会員相互の連携と親睦を深めながら、副校長・教頭としての資質の向上と課題の克服に努めている。

八月の市教頭会研修会では、県北教育事務所いじめ・体罰サポートセンターの先生を講師としてお迎えして「今、教育現場に問われているもの」と題してご講演いただき、学校の喫緊の課題に対する理解を深めた。

十二月の冬季研修会では、教頭二名が実践発表と中央研修報告を行い、学校経営上の諸問題について協議し、充実した研修になった。

本年度の主な活動

四月　市教頭会総会・研修会
　校長・教頭合同研修会
七月　県北小中学校教頭会総会・研修会
八月　市教頭会研修会
　部会別研修会（三部会）
　市研究所主催教頭研修会
十一月　県教頭会研究大会
十二月　市教頭会冬季経営研修会
二月　市教頭会研修会

行方市

行方市教頭会は、小学校十一校、中学校三校の会員数十四名で構成されている。

本年度は三名の新会員を迎え会長を中心に連携と親睦を深めるとともに、資質の向上に努めてきた。定例の教頭会では、教育委員会から指導室長を毎回招聘し、学校運営について研修を深めるとともに、情報交換を行い学校運営等に支障がないよう提出物や内容の確認を行った。

また、本市は今年度も学校適正配置が進行中で、旧玉造町の六校の小学校が来年度（平成二十六年度）一校に統合される。新たな六百三十人を超える規模の小学校のスムーズなスタートのために、今まさにその準備を進めているところである。スクールバス十八台の停留所や人数把握、自転車通学の許可関係、引っ越しで持っていく備品の整理、廃棄、春休みの引っ越し計画等とやることは山積み状態。自分の学校が閉校するため、閉校記念誌編集や閉校行事の計画等、例年なら無いことだらけの一年間でした。でも、教頭会のおかげで昨年度の統合の様子を知ることができ助かりました。

つくば市

つくば市教頭会は、小学校三十七校、中学校十五校（施設一体型小中一貫教育校一校を含む全五十一校）、会員数五十五名の大規模な組織である。

つくば市では、昨年度より本格的に小中一貫教育を実施しており、本年度十一月には、「小中一貫全国サミットinつくば」を開催し、全国へ向けて情報発信を行った。

研修会では、市教育委員会や学校長会の先生方の講話に加え、毎回テーマに沿ったレポートを持ち寄り、グループ協議を行っている。喫緊の課題に対し会員同士で話し合うことで、資質の向上に努めている。

本年度の主な活動

四月　市教頭会総会・定例会①
五月　県教頭会総会
六月　市定例会・研修会②
七月　全国教頭会研究大会
八月　市三者合同研修会
　　市定例会・研修会③
十月　市定例会・研修会④
十一月　関ブロ教頭会研究大会
　　県教頭会研究大会
十二月　市定例会・研修会⑤
二月　全国教頭会中央研修大会
　　市定例会・研修会⑥

石岡市

石岡市教頭会は、今年度三つの中学校が統合して「八郷中学校」が誕生し、小学校十九校、中学校六校となり、会員二十八名で組織されている。八名の新会員を迎え、会長を中心に連携と親睦を深めながら、「学校組織マネジメントを生かした、活力ある学校づくり」をテーマに研修を深め、資質の向上に努めている。

定例の研修会では、市教育委員会の御指導や会場校校長の講話をいただきながら研修や情報交換を行っている。また、発表者からのレポートをもとにグループで協議し、学校運営上の諸問題等について、計画的に研修を深めている。さらに、小中学校間の連携を深めていきたい。

本年度の主な活動

四月　市教頭会総会・研修会
五月　市教頭会研修会
六月　市教頭会研修会
七月　全国教頭会研究大会
　　市三者合同研修会
十月　市教頭会研修会
十一月　県教頭会研究大会
十二月　市教頭会研修会
一月　市教頭会研修会
二月　市教頭会研修会
三月　市教頭会研修会

稲敷市

稲敷市教頭会は、小学校十五名、中学校五名の会員二十名で構成されている。

本年度は、三名の新会員を迎え、「一人一人を生かす創意と活力に満ちた学校づくり」をテーマに、教頭としての資質向上に努めている。

定例の研修会では、市教育委員会の教育長先生の講話や指導室の指導主事の先生の指導をいただきながら、学校運営上の諸問題等について、レポートを持ち寄り、研鑽を積んでいる。

本年度の主な活動

四月　市教頭会総会・研修会
五月　市教頭会定例研修会
六月　市教頭会定例研修会
七月　全国教頭会研究大会
八月　市教頭会定例研修会
　　三者合同研修会
十月　市教頭会定例研修会
十一月　関ブロ教頭会研究大会
　　県教頭会研究大会
十二月　市教頭会定例研修会
二月　全国教頭会中央研修大会
三月　市教頭会定例研修会

北相馬郡

北相馬郡教頭会は、利根町一町で小学校三校と中学校一校の会員四名で構成されている。

本年度は、「生きる力を育む活力ある学校運営を目指して」をテーマに、四名が一丸となって和やかな雰囲気の中、会員相互の協力と関係機関との連携を図りながら教頭としての資質の向上に努めている。

会員が四名なので、一人一人が郡と町の教頭としての役割分担が多いが、月例の定例の研修会では各学校の校長先生の講話をいただいたり、町教育長、指導室長のご指導をいただきながらスムーズな学校運営が出来るように研修に努めている。

本年度の主な活動

四月　郡教頭会総会・研修会
五月　教頭会定例研修会
六月　教頭会定例研修会
七月　教頭会定例研修会
　　全国教頭会研究大会
九月　教頭会定例研修会
十月　教頭会定例研修会
十一月　教頭会定例研修会
　　県教頭会研究大会
十二月　教頭会定例研修会
一月　教頭会定例研修会
二月　教頭会定例研修会
三月　教頭会定例研修会

下妻市

下妻市教頭会は小学校十校、中学校三校（複数教頭配置校一校）の計十三校、会員十四名で構成されている。

本年度は、新たに四名の新会員を迎え、会長を中心に会員相互の連携を図りながら研鑽と親睦を深め、教頭としての資質の向上に努めている。

定例の研修会では、市教育委員会や市校長会のご指導をいただきながら、学校運営上の課題解決に向けた研修や情報交換を行っている。

八月の市学校運営研究協議会では、校長・教頭・教務主任・中堅教員等が参加し、学校運営上の諸問題について研究協議を行った。

本年度の主な活動

四月　市教頭会総会・研修会
四月～二月
　　市定例教頭研修会
　　・教育委員会からの指導
　　・提案発表
　　・協議、情報交換
八月　市学校運営研究協議会
　　県西ブロック教頭研修会
十一月　県教頭会研究大会
三月　まとめと次年度の計画

先輩教頭から
感謝と新たな学び

前筑西市立下館南中学校副校長
鈴木和夫

定年退職し、早一年が過ぎようとしています。退職した当初は、職を全うした充実感と安堵感に包まれましたが、時が経過した今、多くの職員とともに生徒指導の諸問題に関わったり、校舎改築のために東奔西走して頑張ったりしていた生活が、懐かしく思い出されます。

○　○

退職直前は、老いこそ今ある人生ですし、「命ある限り有効に送っていこう。後を振り向かず常に前向きで精一杯、社会に貢献しながら、これからの人生をゆっくりのんびり、豊かに生きていこう。」と思っていました。

そんな束の間、四月一日付けで非常勤の公民館での社会教育指導員の職が舞い込んできたのです。

初めは、躊躇しました。しかし、派遣社会教育主事の経験もあり、「地元の公民館への勤務という恩返しのために、生涯学習の拠点である公民館で働くのもよいかもしれない」と思い承諾しました。

○　○

仕事の内容は、社会教育関係の自主学級・講座・研修会等の指導・学習相談、及び社会教育関係団体に対する指導助言等でした。

特に、私が担当している業務は、幼稚園での家庭教育学級への指導、公民館での各種講座（料理講座・和菓子講座等）、及び高齢者学級（河内ことぶき学級）への支援・指導を中心となって担当しています。

このように、地域と連携しこれまで以上に心に余裕をもって指導・助言に関わることができるということは、現在の私にとって、退職後の生き甲斐となっています。

○　○

さて、現職の際に読んだ書物に、退職後の人生の愉しみ方について、感慨深い文章が掲載されていました。その一部をご紹介いたします。

一　付き合う人を選ぶ

その趣旨は、できるだけ多くの人付き合い、その中で人生の愉しみを共有できる知り合いとなるということです。

二　「かわいい」と周囲から思われる年寄りになる

幼児のかわいらしさと、大人の知性を兼ね備えた年寄りになりたいものです。

三　自分なりの「幸せ」を見つける

本人が恵まれていると考えて満足していれば、それが一番の幸せであるということです。

退職後、これら三つの事項を常に心がけ、日々の生活の中で少しずつ実行しているところです。

公民館での勤務をすることになった今、教員になった当初味わっていた教える喜びを、また味わえる機会に恵まれたことに、日々、感謝する毎日です。

○　○

最後になりましたが、こうして無事定年退職ができたのは、教頭職の皆様から、多くのことを教えていただき支えていただいたお蔭なのです。ありがとうございました。皆様の、今後ますますのご健康とご活躍を祈念いたします。

学校紹介

学校のシンボル「阿見小の大いちょう」

阿見町立阿見小学校

本校は、阿見町の中心部に位置し創立百三周年を迎えた歴史ある学校です。

本校の自慢は校庭の「大いちょう」の木で、その大きさは体育の準備運動で一学年約百名が木の陰にすっぽり入れるほど大きいものです。学校創立時に青年団の方が校庭の隅に植樹してくださったものですが、敷地の拡大にともない今では校庭の真ん中に位置しています。

春は力強い芽吹き、夏は涼しい木陰、秋は美しい黄葉、冬は凛として空を指さす枝など、四季折々にすばらしい姿を見せてくれます。業間休みをいちょうタイムと名付け、学級単位での外遊びを奨励したり、児童会によるいちょう集会や黄葉予想クイズなども実施をしています。

また、卒業生にとっても、学校生活の様々な思い出がこの大いちょうと重なり合って強く心に刻み込まれているそうです。地域にとっても自慢のシンボルです。これからも本校の歴史とともに大いちょうを大切に継承していきます。

生き生きとした児童の育成を目指して

八千代町立川西小学校

本校は、町の北東部、東に鬼怒川が流れる田園地帯に位置し、創立百二十七年を迎えます。児童数百四十四名、全学年単学級の小規模校です。

昔からの三世代家庭が多く、学校に協力的です。「川西見守り隊」会員約百名が、毎日児童の登下校の安全に目を配ってくれています。

学力の向上には、毎日の授業の充実が一番であると考え、授業の始まり終わりの時刻を守ること、そして、子どもたちが楽しく活動し、よく分かる授業の実践に努めています。今年度は、学習習慣の定着による学力の向上、研究授業を通した教師の指導力の向上、せんだん（基礎基本の定着の時間）の充実、読書の生活化などを推進してきました。「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」では、平成十八年度以来、毎年全員が五十冊読破を達成しています。

今後も、家庭との連携のもと早寝・早起き・朝ごはん・家庭学習の習慣化をさらに進めていきたいと考えます。

なかよし班で思いやりの心を

神栖市立柳川小学校

本校は、北に鹿島港、西に波崎工業団地という鹿島臨海工業地帯のオアシスのような地域に位置する。海抜４・６ｍ、鹿島灘まで５００ｍ余り、７ｍの砂丘が東日本大震災の津波から地域を守ってくれた。

今年度「地域との連携による学校の防災力強化推進事業」の指定を受け防災教育に力を注いできた。津波・砂丘の専門家の講演会、学校・地域合同防災体験学習、合同避難訓練、防災マップづくり等を推進し、学校・地域及び企業との連携もできた。

先日、「海岸防災林植樹祭」も行った。４校合同で、声高らかに緑の誓いを唱え一人一人クロマツを植えた思い出は、参加した児童の心に残ることと思う。

本校の特色ある教育活動の一つとしてなかよし班（縦割り班）活動が定着している。６年生を中心とした縦割りの班で愛校作業・給食・遊び・掃除などを行う時間を計画的に設け、交流をもつ中で思いやりの心も育ってきている。

あたたかい人間関係を基盤とした学校づくり

小美玉市立美野里中学校

本校は今年で創立四十四年目を迎え、生徒数七百三十名の大規模中学校となっています。生徒は、明るく素直で活気があり、学習、部活動、生徒会活動、学校行事に全力で取り組むということが本校のよい伝統となっています。

部活動の面では今年度、野球、男子バスケット、新体操、女子ソフトボール、陸上が関東大会出場、また陸上が全国大会へ出場するなど多くの部がすばらしい活躍をしています。

本校の学校目標「豊かな人間性と確かな学力を身につけ、社会的に自立した生き方のできる生徒を育成する」に向け、学び合う学習による学力の向上、スキル学習、ライフスキル学習、学校行事による社会性の向上を図り、あたたかい人間関係、あたたかい友だち関係のある学校づくりを進めています。今年度は夏季休業中に全職員で二日間、十六時間のライフスキル研修に取り組みました。そのおかげで、職員間の人間関係も大変よくなりました。

県西一の学校づくりへの道

結城市立結城南中学校

本校は、四つの地域で構成され、東に鬼怒川、西に西仁連川、北に田川等の美しい河川と田園に囲まれ、水の恵みの中で生徒は伸び伸び、そして生き生きと生活している。

文武両道の教育を目指す本校では、サッカー部が晴れの全国大会に出場するなどの快挙を成しとげ、地域全体から祝福を受けた。また、学習及び文化面でも「科学の甲子園ジュニア茨城大会」やポスターコンクール等でも顕著な成績を残すことができた。

また、生徒の命を守り抜く学校として、安全面の指導体制の見直しと強化を市の協力のもと計画的に行ってきた。八月には防災倉庫を設置し、アルファ米やミネラル水・発電機等を常備し、市内南部をフォローする避難所として機能の充実に努めている。

保護者や地域は学校への支援や協力を惜しまず、おやじの会による、除草や消毒作業、消防団によるグラウンドの水撒き作業など、学校への大きな支えとなっている。

地域の深い愛情を全身に感じながら、今日も県西一の学校づくりに邁進している。

随想

向上心をもって第二の人生を

筑西市立川島小学校
小室　明宏

二十七歳で教員になり、もうすぐ三十年が経とうとしている。教員の仕事にやり甲斐を感じ、無我夢中で取り組んできたが、振り返ってみると、学級担任は別格として、最も充実感をもてたのは、生徒指導主事や教頭として、児童生徒と腹を割って話し合ったり、保護者の悩みに耳を傾けたりして、ともに知恵を働かせてよりよい道を探ることだった。児童生徒や保護者が自ら気づき、新たな道に向かって歩き始めるとき、大きな喜びを感じた。

今、教職も終盤を迎え、第二の人生について考えるようになった。経験と勘に頼って児童生徒や保護者とかかわってきたが、学問的な背景について知りたいと強く願うようになった。退職後は、今まで頑張ってきた自分に対するご褒美として、もう一度大学生になりたいと思っている。向上心と目標をもって、人の役に立ち、人に喜ばれる仕事をして、ご恩返しをしたいと思っている。

真央ちゃんに想う

水戸市立稲荷第一小学校
石田　進

ソチオリンピックが閉幕しました。前日の大失敗から一転、世界中を魅了する完璧なフリーの演技を披露した浅田真央選手。彼女の想像を絶するメンタルの強さに、演技以上の感動を覚えました。

学校現場では、ともすると、子どもたちに、「うまくできるようになる」ことだけを教えがちです。一番になる方法を教えることも大切ですが、「一番になれなかったとき」「うまくいかなかったとき」どうすべきかを教えることは、もっと大切です。一番になって金メダルを手にするのはたったの一人。それ以外は、みな「敗者」です。「敗れた自分」とどう向き合って、次のステップへ進むのか。そこで、その人の本当の真価が問われます。

「うまくいくこと」より、圧倒的に「うまくいかないこと」と向き合うことが多いのが人生です。「よりベターな敗者」であり続けることが、たくましく「生きる力」なのかもしれません。

心を込めた言葉

守谷市立松ケ丘小学校
奈幡　正

日本語学者の金田一秀穂氏が、九割以上の人が「丁（てい）字路」を「T（ティー）字路」と誤認識している事例をとおして、「大切なのは『正確な』言葉よりも、意図が正しく『伝わる』言葉の重要性を指摘していました。「アボガド」と「アボカド」。「シュミレーション」と「シミュレーション」。いずれも正解は後者でありながら、間違いでも『伝わる』言葉になっているとのこと。

新米教頭が、職場の先生方や児童との日々の対話で実感したことが三つあります。

一、学校で大切なのは「気の利いた言葉」ではないこと。

二、金田一氏が言う「意図が正しく『伝わる』言葉」は大切であること。

三、一番大事なのは「心を込めた言葉」を発すること。

作家、中野孝次氏の言葉を思い出しています。「人が生きていく上で必要なのは理論とか思想とかではない。ごく単純な言葉だ」と。

「有難う」「申し訳ありません」―今年最も発した言葉。

子どもは未来に開いている

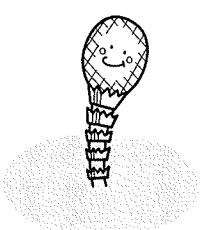
古河市立名崎小学校
荒木　久美子

ソチ五輪では若い世代の活躍が光っていました。

東京五輪開催も決まり、今、私たちが関わっている子どもたちは、近い将来多くの貴重な経験をするのだろうと思います。開催が決まった時、フェンシングの太田選手が「子どもたちに次のステージを準備することができてよかった」と話していました。同様のことを今回のソチ五輪のアスリートたちもコメントしていました。一流のアスリートたちが口々に発していた、次世代の子どもたちを思う気持ちは、きっと私たち「先生」が持っていなければならない想いに近いものがあるのではないかと感じています。

内地留学した時からずっとご指導いただいている国語教育の桑原隆先生は「『子どもは未来に開いている』という意識をもって授業をしなさい」と常におっしゃいます。

可能性に満ちた子どもたちに対して、学校はどんなことができるのだろうか。日々自問自答しています。



編集後記

教頭会会報一六三号をお届けいたします。県西地区が担当させていただきました。今回は発行の時期が前後し、関係の方々には大変お手数をおかけいたしました。

ご多用にもかかわらず、原稿をお寄せいただき誠にありがとうございました。お陰様で無事に発行することができました。皆様方のご協力に感謝申し上げます。